



寺紋
ひいらぎ
格 かこみ沢瀉
おもだか
(通称 大関沢瀉)

大雄寺報

= 第5号 =

平成18年1月1日発行

発行所 黒羽山 大雄寺

〒324-0233

栃木県大田原市黒羽町450

T E L 0287-54-0332

F A X 0287-54-0330

編集発行人 住職 倉澤 良裕

印 刷 所 タキザワ印刷



第一番 賓頭盧尊者
(おびんずるさま)

十六羅漢の第一番は、賓頭盧尊者(びんずるそんじや)です。釈尊の弟子となり、悟り得て阿羅漢となり説法が上手であったので説法第一の尊者として敬われ、仏法護持に当たります。

この尊像は本堂入り口に安置され、痛みがあるところを撫でることで治る。たとえば、足が痛ければ、おびんずるさまの足を撫で、自分の足を撫でることで治るとされ、いわゆる、「撫で仏」として親しまれています。

板絵十六羅漢図 (大田原市文化財指定)

本堂内の部屋に掲げられた板絵十六枚の羅漢図であります。

羅漢とは、正確には阿羅漢といって、インドの言葉で「アルハン」というのを音写した語であります。

これを訳して「應供」(供養を受けるに相応しい人)といい、仏弟子として最高の覚りの境地を体得した人を阿羅漢と尊称しました。特にすぐれた十六人の仏弟子を十六羅漢といいます。

第十六番 注荼半托迦尊者

(チューダ・パンタカ・周梨槃特)

お釈迦様のお弟子に物忘れのはげしい、愚かな方がおりました。お釈迦様から教えられることがなかなか理解できず、仲間はずれにもなっていました。

ある時、お釈迦様は一本の箒を与え、お掃除を一生懸命行いなさいと教えられ、このお弟子は「塵を払え、垢を除かん。」と念じ、毎日毎日お掃除を行いました。長年の掃除を実行し、掃除とは心を磨くこと。周囲の奇麗や汚れに左右されることなく、自己を磨くことであると悟ります。後に有名なお弟子となり、名をチューダ・パンタカ(周梨槃特)といいます。

掃除は、塵埃があるから掃除するというように、単に奇麗にするための手段として考えると汚れていないければ、掃除は不要ということになります。

重要なことは、染汚、不染汚にかかわりなく、唯ひたすらにつとめる行。汚れていても、いなくてもそれにこだわることなく無心に行づる。このことが掃除である、という教え。

ところで、昔から「ミョウガを食べると物忘れする」と伝えられています。チューダ・パンタカの墓に生えた植物という警え話からであります。そして、ミョウガを漢字で書くと「茗荷」。名前を荷う。愚かなために自分の名前を忘れるから、名札を荷物にしていると言う当て字で「茗荷」と書くのであります。

掃除とは、「自己をみつめ、自己の行として心を磨くこと」の教えです。



ぎてはいけない。

第十五条 重職は、裏表があつてはならない。

第十六条 重職は、公開すべき情報は、公開せよ。

第十七条 重職は、部下の気持ちを明るく保たなければならない。

「黒羽」の名称変遷

滞在地として、奥の細道に「那須の黒ばね」と云う所に知人（しるひと）あれど、「云々」や「黒羽の館代（かんだい）」淨法寺何がしの方に音信（おとず）る。云々などと「黒羽」の地名が昔から呼称され、古文書にも記されているのはご承知の通りであります。

幕末の名君大関増裕のあとを受けた

増勤（ますとし）は、明治二年（一八六九）黒羽藩知事となり、明治四年（一八七二）の廃藩置県後、黒羽藩は

黒羽県と称しましたが、同年十一月宇都宮県の管轄となり、明治六年（一八七三）六月栃木県の管轄に入りました。

明治二年（一八八九）の町村制が施

行され黒羽町、川西町、両郷村、須賀川村が誕生。そして、町村合併促進法の公布とともに、昭和三〇年（一九五五）二月十一日、二町、二村が合併し

て黒羽町が誕生しました。

自然を生かした農業、林業、観光の

町として発展を遂げながら、観光立国として併聖、松尾芭蕉ゆかりの地を旗印に城址公園の整備と芭蕉の館の整備に努め、広く黒羽の名が知られることとなり、多くの観光客が訪れるようになります。その活動は「坐禅教室」であります。毎月一回行われ、毎回二十名から三十名程の参加があります。

毎回の流れについては、午後五時四十分から開始して、十分ほどの法話後、二十分から三十分間坐ります。面壁、正身端坐、只ひたすらに坐ります。警

策も厳しく、自ら合掌し警策を求める

者も多く、連策と申して坐禅者全員に警策をあて、身の引き締まりと張り詰めた静けさの中での坐禅であります。

終わって「修証義」を同音に読経し、質疑や法話で終了します。

毎回決まつた人が参加されていきますが、初めて参加する人も時々加わり、

坐禅の仕方や心構えを話しながら進めています。

なぜ「坐禅教室」に参加していますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でしょうか。本来

の自分ともう一人の自分が相対して坐

している姿が、坐禅の「坐」を見てとれます。

坐禅の「坐」は誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

ど感想や意見もあり、法話や質問に答

えながら大切な時間を持ち続けています。

坐禅の「坐」という字は、「土の上

に人が二人」と書きます。土とは、大

地、この野原、大自然、私たちの住む

地球という意味にとれます。この大地にどつしりと腰をおろした人が二人。

人が二人とは誰と誰でありますか？

自分にとつて「坐禅教室」は何ですか？

など尋ねてみますと、「じっくりと自

分を見つめてみたいため」「落ち着け

<

の大地に地球に抱かれ、つつまれた自分に気づかねばなりません。

身体を真っ直ぐにして坐る、身体を真っ直ぐになれば、心も真っ直ぐになります。真っ直ぐな心を保ち、一日一日を大切に生きることであります。

「土の上に人が一人」。この土を「多くのおかげ」に当てはめてみると、多くのものの生命の上に自分が生かされていることに気付きます。

そして自分の父や母や先祖を土に当てはめてみると、自分がなおいつそう尊くなります。

相田みつをの「自分の番・・いのちのバトン」という詩があります。

父と母で二人

父と母の両親で四人

そのまた両親で八人

こうしてかぞえてゆくと

十代前で千二十四人

二十代前では・・?

なんと百万人を超えるんです

過去無量の

いのちのバトンを受けついで

いまここに

自分の番を生きている

それが

あなたのいのちです

それがわたしのいのちです

その父や母、先祖の命をいただき、その命に抱かれた自分に気付くはずです。

「土の上に人が二人」自己中心的な

生き方から目覚め、本来の自分が持っているやさしい心、美しい心、まごころを周りの方々に向けることのできる人間であつて欲しいのです。

私の寺の「日曜坐禅会」参加者の感想文を紹介します。

『私が、坐禅会に参加させていただ

くようになり、六・七年になります。

考えてみると、もうそんなになるのか

と思います。始めたころは、そんなに

長く続かないのではないかと思いまし

たが、今では坐禅会出席者の中でも古

参になつてしましました。

私が、坐禅会に出席するようになつた理由は、私の勤務している会社の社長

の勧めもあり、慌て者の性格を直した

いと思い、参加するようになりました。

私が、坐禅をするようになり変わつ

た点は、朝、早起きするようになります

した。日曜日は今まで遅かつたのですが、坐禅がない日でも早起きするよう

になりました。

次に坐禅をするようになり、以前よ

り季節を感じるようになりました。春

の鳥の声、夏の暑さ、秋の虫の声、冬

の厳しい寒さ、四季折々の草花の美しさに感動を覚えるのです。

逆に、なかなか進歩できない点は、

坐禅をするときには、坐禅の姿勢を崩さないように只ひたすらに何も考えず

に行うものですが、つい雑念が入つてしまい、考えを巡らせてしまうこと

です。そうゆう雑念には、気をとらわ

れず行おうと思うのですが、未だにで

きません。

最後に、坐禅をやつていて良かつた点は、達成感が得られることです。年に一度か二度しかないので、足が痺れずに終わらうとした時の気持ちよさ、それに真冬に裸足で坐禅を行い、冬が終わり暖かくなつたときの達成感がたまりません。

これから目標としては、未だに達成されていませんが、一年間、二十四回休まずに参加したいことと、すぐには変わらないかもしませんが、坐禅を通してゆとりのある慌てない性格に変わられたらと思います。』

日曜坐禅会の会員の感想にもありますように、「坐禅教室」に参加している被収容者も同様に、なぜ坐禅をするか。坐禅をはじめるきっかけには、それぞれ何らかの願いがあるようになります。たとえ願いという程のものでなくとも、坐禅をしたら真実なものに出会うことができるのではないかと思つて坐禅をはじめるのであります。

「坐禅教室」に参加し、坐禅をはじめ坐禅を実践しているということは、真実ということを信じていたから坐禅でもしてみようかと思つたのであります。真実の実践として坐禅を信じて坐つてゐるのであります。

坐禅の真実に気づき、今坐禅をしているという事実の中に確かなものがいる。ただひたすら坐るということになるわけであります。真実を求める、心の求めようとする心の中の痛み、不安、不満、こんなことをしていてはよくないという気持ち、しかも真実を求める方法も外にあるのかも知れないのに坐禅に求めたわけであります。

坐して自己を見つめ、本来の自分に目覚め一日も早く社会復帰することを念するものであります。

真実からの呼びかけが一致して、それを身体と心で実際に証明していくことだということに気がつきます。坐禅をしているとそれがわかつてきます。真実というのは自覚する前に自分自身が行動しているものだということがわかります。

身を調べ、息を調べ、心を調べて静かで安定した身体と心の状態にあること、その自体がすでに真実を証明しているわけであります。坐禅は真実を実証しているのであって真実を求めるためのものではないことがわかります。このように、真実が先にあつてその眞實にさせられて坐禅をすることなのであります。

「坐禅教室」に参加し、坐禅をはじめ坐禅を実践しているということは、真実ということを信じていたから坐禅でもしてみようかと思つたのであります。真実の実践として坐禅を信じて坐つてゐるのであります。

坐禅の真実に気づき、今坐禅をしているという事実の中に確かなものがいる。ただひたすら坐るということになるわけであります。真実を求める、心のやすらぎを求める願いも、そういうものを確かめた上で、それらをはなれてひたすら坐ることなのです。ひたすらこの事実の中にひたつてゐる。それが坐禅であります。

涅槃図になぜ猫が

描かれないの？

二月十五日はお釈迦さまのご命日です。亡くなつた時の模様を描いたものを「涅槃図」といい、仏教寺院では、二月になると本堂に掲げます。

鳥や獸や人々やお弟子たちがお釈迦さまの死を悼み嘆き悲しんでいる様子が描かれていますが、猫だけが描かれていません。（猫が描かれた涅槃図もあるようですが）『お釈迦さまが死の床に着いた時、薬を取りに行つたネズミをネコが食べたから』あるいは『ネズミがそそのかしたため、猫がお釈迦



絹本着色釈迦涅槃図（栃木県文化財指定）

この沙羅の木はお禊迦さまが亡くなりると、枝がおおうように上にかぶさり、葉が白く変わって、時ならぬ白い花が咲き、はらはらと散つたといわれています。

沙羅双樹の林の中、頭を北向きに顔を西に向け横たわり、八十歳で亡くなられたと伝えられています。この沙羅の木はお釈迦さまが亡くなると、枝がおおうように上にかぶさり、葉が白く変わつて、時ならぬ白い花が咲き、はらはらと散つたといわれています。

二月十五日の涅槃の日は、本堂に掲げられた「涅槃図」におだんごをお供えしお参りします。このおだんごをいたぐると一年の息災にご利益があると

さまの入滅の日(亡くなつた日)に間に合わなかつたから』などと伝えられ、十二支にも猫が入つていないとされています。

されています。

何処の寺院でも、二月一日から本堂に掲げられますので、是非、お近くのお寺に行つて「涅槃図」をお参りして、和尚さんからお話を聞いてみてください。

仏壇の前でなぜ正座するの？

正座するの？

お仏壇の前に座るとき、正座しなければなりません。正座とは、あらたまること。折り目を正すことです。ころを一新することで、日常的ななれなれしい気持ちを切り替えることです。そういうことを、日本では「正座」と

そういうことを 日本では「正座」ということで表したのです。

いふことで表したのです

なせ、正座をするのかどうか、教では、自分自身を信ずることができ

教では、自分自身を信することができなくて、どうして他人を信ずることが

なくて、どうして他人を信ずることができようか、まず、自分が信じられる

できようか、まず、自分が信じられる人間になりなさい、と教えているのです。

人間になりなさい、と教えているのです。仏壇に向かうということは、仏さま

仏壇に向かうということは、仏さまやご先祖さまとの対話なのです。体を

やご先祖さまとの対話なのです。体を真っ直ぐにして、真っ直ぐなこころを

真っ直ぐにして、真っ直ぐなこころを保ち、正直に生きることを誓うことで

あります

通夜の晩、一晩中

火明や線香の火を
絶やさないのは

どうしてか？

通夜とは、葬儀の前夜、文字どおり夜を徹して故人の遺体を守り、その靈を慰める儀式を「通夜」といいます。もともとは、悪霊や魔物から死者を守るために、一晩中火を燃やして過ごしたことなどが起こりとされ、昔からの習慣から灯明（お線香）を一晩中つけておくことが現在でも残っているのです。

大事なことは、親近者が故人を偲び生前の生き方を語り合うということです。

葬儀に関する接待で、「通夜振る舞い」と「精進落とし」について「通夜振る舞い」は、弔問客に対する



手を合わすと、こころが落ち着きます。足が痛く正座ができなければ、イスや座椅子を使用しても結構です。イスの場合は、体を背もたれから離して座つてください。
まなづ

「通夜振る舞い」は、弔問客に対す

る感謝の意を表わすことが目的ですが、「精進落とし」は「精進上げ」ともいわれ、親族の死後、通夜から骨上げまで、または、四十九日間、亡くなられた人のためにそれ以上殺生を犯さないようにしようという心配りから、魚や肉を食べずに精進した期間に区切りをつけ、平生の暮らしに戻ることを意味したものです。

したがって、「精進落とし」とは忌に服した生活から、元の生活に戻る区切りという大事な意味をもつていています。最近では葬儀にお世話をなった人達に対する感謝の意を含めてなすため、葬儀の終わった日に行われることが多いです。

成仏とは、どういうこと?

成仏とは文字通り仏に成ること。言い換えれば迷いを脱して覚ることを意味します。仏教に帰依していた人が亡くなると、仏のいのちと一緒に仏に成ることです。

この世は仏に成る修行の世なので、人生を生きて生ききつた人は、仏に成るとして、葬儀において、仏門に入る式を行なうのであります。その式はお釈迦さまを見送った例にならつて、仏にするための儀式をいうのです。

私たちのいのちは、親からご先祖さまから受け継がれてきた尊いのちをいただいて生かされて生きているので

す。この尊いのちを未練なく、とことん生きぬいて、ご先祖の代表者として今生きているのです。

しかし、このいのち、無念さと未練を残し、死を迎えたならば、幽靈としてこの世に出現することになるのでしょうか。

たつた一度しかいただくことのできないこのいのち

親から ご先祖から いただいたことができよかつたです このいのちを

いただくことができたからこそ 実感できるのです

生きていることを 人間であることを 実感できるのです

大切にして生かさねばなりません そして 生きて 生きて 生ききつて 未練なく ありがとうございますと

塔婆（とうば）とは 何ですか？

塔婆とはサンスクリット語でストゥーパと言い、中国では「卒塔婆（ソトウバ）」と音写され、これが略されて「塔婆」といわれるようになりました。

始まりはインドでお釈迦様が入滅された時に、その舍利遺骨を八つに分けた土饅頭の形に塚を造り、その中に舍利を納めた事によります。

なぜお参りするとき 数珠を持つの？

数珠は、玉がたくさんつながって輪になっています。玉はいくつあるでしょうか。大きい輪の数珠は、一〇八個あ

れました。

現在、ご法事の折にあげるお塔婆には、上から順に宝形・半月・三角・円形・方形の五輪の形を刻み、空・風・火・水・地の五大元素を表し、宇宙の生命と云うものを意味しています。

私たちの生命は、様々な宇宙の生命の恩恵を受けながら、過去（先祖）・現在（私たち）・未来（子孫）へと引き継がれて行きます。

その恩恵に感謝し、故人の戒名をしたため、施主の追善（ご先祖様に対し、追つて善行を積む事で、安樂の世界でお過ごしいただけますようにと祈る）の気持ちを込めてお塔婆を建てます。建てられた塔婆は、佛様の加護を受けながら、確実にご先祖のもとに届きますようにとの施主の願いを表したものなのです。いうなれば、ご先祖さまへのお手紙です。

「わがままなこころ」とは、「自分の思うとおりになつたらいいな」「自分で幸せならいい」というこころです。

数珠を持つということは、「わがままなこころ」を少しでも無くすよう努めることなのです。

「わがままなこころ」とは、「自分がまことにこころが無くなると、仏さまのこころと同じようになつて、思いやりのある優しい人になれるのです。

数珠を持って、わがままなこころを無くすよう、毎朝お仏壇の前でお参りしましょう。

年回供養・盂蘭盆会・お彼岸など、ご先祖様の追善供養をされる時には、是非、塔婆を建ててあげて下さい。



ります。小さいのは一〇八の半分の五十四個とか、そのまた半分の二七個とかの玉でできています。どうして一〇八個なのかというと、私たちの心には一〇八のわがままなこころがあるからです。わがままなこころを煩悩といい、欲張ったり、怒つたり、不平不満を言つたりするところをいいます。

お釈迦さまは、私たちにどうしたら幸せになれるかということを教えて下さいました。それには、まず、わがままなこころを捨てるようになるとおっしゃつたのです。

お釈迦さまは、私たちにどうしたら幸せになれるかということを教えて下さいました。それには、まず、わがままなこころを捨てるようになるとおっしゃつたのです。

集古館のご案内

學童疎闊

昨年は、戦後六〇年でした。戦争の悲惨さや平和についての話題が多くマスコミに取り上げられ、私たちの身近なところに戦争の傷跡があり、平和の有り難さを深くかみ締めることとなりました。

学童疎開とは、第二次世界大戦末期において米軍による本土爆撃に備え、大都市の国民学校初等科学童をより安全な地域に一時移住させたこと。

日付閣議決定「学童疎開促進要綱」に
もとづき、縁故疎開に依り難い国民学

た疎開当時の思い出を熱く語られ、私は、以前から疎開のことは聞いておりましたが、実際に疎開されていた方にお会いすることはありませんでした。写真も初めて拝見いたした次第であります。

疎開中にかけがえのない親や家族を空襲で亡くし、戦後の混乱期に苦難の道を歩むことになった多くの戦災孤児がいたことを忘れる事はできません。昨年、大雄寺に疎開をした方（女性七三歳）が訪れ、六〇年前の学童疎開の写真を見せられました。小学生であつた疎開当時の思い出を熱く語られ、私は、以前から疎開のことは聞いておりましたが、実際に疎開されていましたが、実際に疎開されることはありませんでした。写真も初めて拝見いたした次第であり

沖縄の那覇から九州に向かつた学童疎開船「対馬丸」が米軍潜水艦により撃沈され、学童七七五人が犠牲となつたこと、一九四五年（昭和二〇年）三月一〇日未明の東京大空襲で、卒業進学のため疎開地から帰京した直後の六年生が多数命を落としたこと、また、

大雄寺本堂前と本堂内にて(昭和20年3月4日撮影)



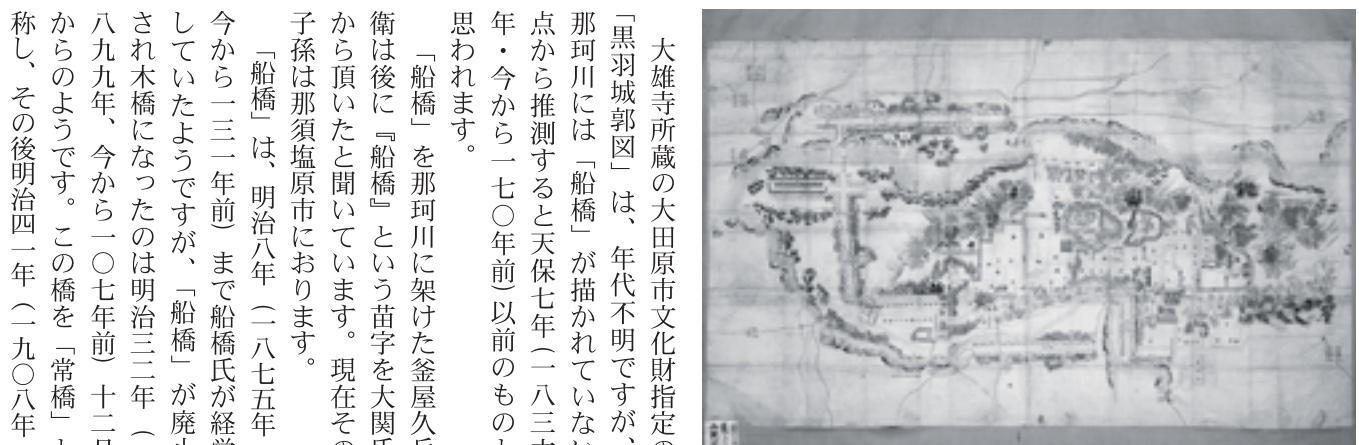
那珂橋について

旧黒羽の那珂川に架かる橋、那珂橋が、現在の鉄の橋になるまでには先人の英知が集められてきました。黒羽藩お抱え絵師小泉斐作で町所有の「黒羽城鳥瞰図」(天田原市文化財指定)は、天保八年(一八三七年・今から一六九年前)に描かれたのですが、那珂川に架かる橋は「船橋」を見ることができます。

資料によりますと、天保七年（一八三六年・今から一七〇年前）頃近江国日野町生れの商人釜屋久兵衛という人が試作したのがその始まりのようです。

場所	児童数	疎開学校	受入校
大雄寺	100名	本郷元町小学校	黒羽小学校
常念寺	40名	"	川西小学校
西教寺	60名	"	川西小学校
金秀寺	40名	"	片田小学校
光厳寺	56名	駒本小学校	両郷中央小学校

旧黒羽町の集団疎開児童受け入れ 『黒羽町誌』より



黒羽城郭図（大田原市文化財指定）

今から九八年前に新しい木橋に架けられ、昭和六年（一九三一年・今から七五年前）現在の鉄橋になりました。この現在の鉄橋も七五年も経つてことになります。

黒羽藩の交通機関は那珂川で船が輸送手段で物資木材が江戸へと往来していましたが、道路を走る自動車・トラックが輸送手段となつた今、那珂橋の老朽化による危険度が増し、早急な方策を講じなければ成らないと思うのは私だけではないと思います。

茅葺き屋根の大雄寺 その保存について

社団法人 全国国宝重要文化財所有者連盟会報へ寄稿文

大雄寺所蔵の大田原市文化財指定の「黒羽城郭図」は、年代不明ですが、那珂川には「船橋」が描かれていない点から推測すると天保七年（一八三六年・今から一七〇年前）以前のものと思われます。

「船橋」を那珂川に架けた釜屋久兵衛は後に『船橋』という苗字を大関氏から頂いたと聞いています。現在その子孫は那須塩原市におります。

「船橋」は、明治八年（一八七五年・今から一三一年前）まで船橋氏が経営していたようですが、「船橋」が廃止され木橋になつたのは明治三二年（一八九九年、今から一〇七年前）十二月からのようです。この橋を「常橋」と称し、その後明治四一年（一九〇八年・

黒羽山大雄寺は、栃木県北部の那須、那珂川にある曹洞宗の寺院であります。黒羽山大雄寺は、室町時代中期に創建され、黒羽藩主大関家菩提寺として文安五年（一四五八年）に再建。その後、天正四年（一五六六年）に黒羽城築城と共に、黒羽藩主大関高増により現在地（栃木県大田原市黒羽田町四五〇番地）に移築されました。

本堂、禅堂、庫裡、総門、廻廊、鐘楼堂など当時からの伽藍の全てが、茅葺き屋根で保存し栃木県有形文化財指定（昭和四四年二月四日）を受けています。大雄寺の主な伽藍配置は、人体の頭部に本堂、右手に禅堂左手に庫裡、本堂正面に総門、総門左右に取り付く廻廊はこれらを結び、廻廊に囲ま

れた境内の中に鐘楼堂を配し、廻廊外に経藏と宝物収蔵庫があります。

本堂（正面十二間、側面八間、寄棟、茅葺）・禅堂（正面五間、側面五間、寄棟、茅葺）・庫裡（桁行十三間、梁間七間、入母屋、茅葺）・総門（薬医門、寄棟、茅葺）・回廊（四十八間、茅葺）。

鐘楼堂（正面一間、側面一間、入母屋、茅葺）

経藏と輪藏内の一切経四五〇〇巻は、昭和四二年一二月二二日に栃木県有形文化財の指定を受けています。経藏（正面五間、側面六間、方形銅版葺）、

向拝正面一間、土蔵造）

県文化財指定を受けた当時、伽藍の老朽化が進み、深刻な状態であつたため、補助事業として保存修理を開始しました。

● 昭和四二年 鐘楼堂保存修理。（梵鐘は戦時中供出、完成後梵鐘備える。）

● 昭和四五年～四六年 禅堂二ヶ年継続全面解体保存修理。

● 昭和五〇年～五二年 本堂、御靈屋、総門、玄関、廻廊三ヶ年継続保存修理。

● 昭和五七年～五八年 経藏・輪藏二ヶ年継続保存修理。

● 平成元年～三年 防災設備。三ヶ年半解体保存修理。

● 昭和六三年～平成二年 庫裡三ヶ年

伽藍が室町期の建造物として蘇ることとなりました。茅屋根保存には、茅材の短い耐久年数や可燃性、鳥などの鳥害、茅職人の技術の継承、材料確保、高価な費用など問題と不安が山積しています。

保存修理事業から約二十年経過した本堂や廻廊など破損、腐食を進行させないため再度保存修理や補修工事（差し茅工事）を継続しているところであります。

● 平成六年 総門、回廊保存修理。

● 平成八年 禅堂、鐘楼堂保存修理。

● 平成一〇年～一年 本堂二ヶ年継続保存修理

平成六年からの保存修理事業は、全国各地の茅屋根の神社仏閣を専門とする宮城県(熊谷産業)に依頼し、実施してきました。今後も諸堂宇の護持に努力していく覚悟であります。

伽藍焼失を免れて保存してきた茅屋根の素朴な佇まいは、訪れる人々に驚きと感動を与えた開かれた寺院として、参拝の受け入れや坐禅研修などに生かされています。また、大雄寺は多くの寺宝を所蔵し、仏像・仏画等は、栃木県文化財指定を受け大切に保存してきました。平成一六年には宝物の収蔵と展示了が可能な宝物収蔵庫が完成しました。

日本の伝統文化である茅屋根の七堂伽藍は、全国でも貴重な建造物であります。是非とも国的重要文化財指定として保護されることを強く願うものであります。

*** 写真で綴る大雄寺今昔 ***



大雄寺境内（昭和 17 年）



大雄寺全景（昭和初期頃）



大雄寺禪堂（昭和 41 年頃）



大雄寺全景（平成 18 年）

お知らせ

- 大雄寺について詳細に解説した案内本「黒羽山大雄寺 諸堂拝観」
ご希望の方はお問い合わせ下さい。
- 堂内拝観　　本堂・禅堂などに入室して説明を受け拝観できます。
事前に予約をお願いします。
- 坐禅研修　　坐禅の心得を学び、禅堂で坐禅の研修ができます。
事前に予約をお願いします。

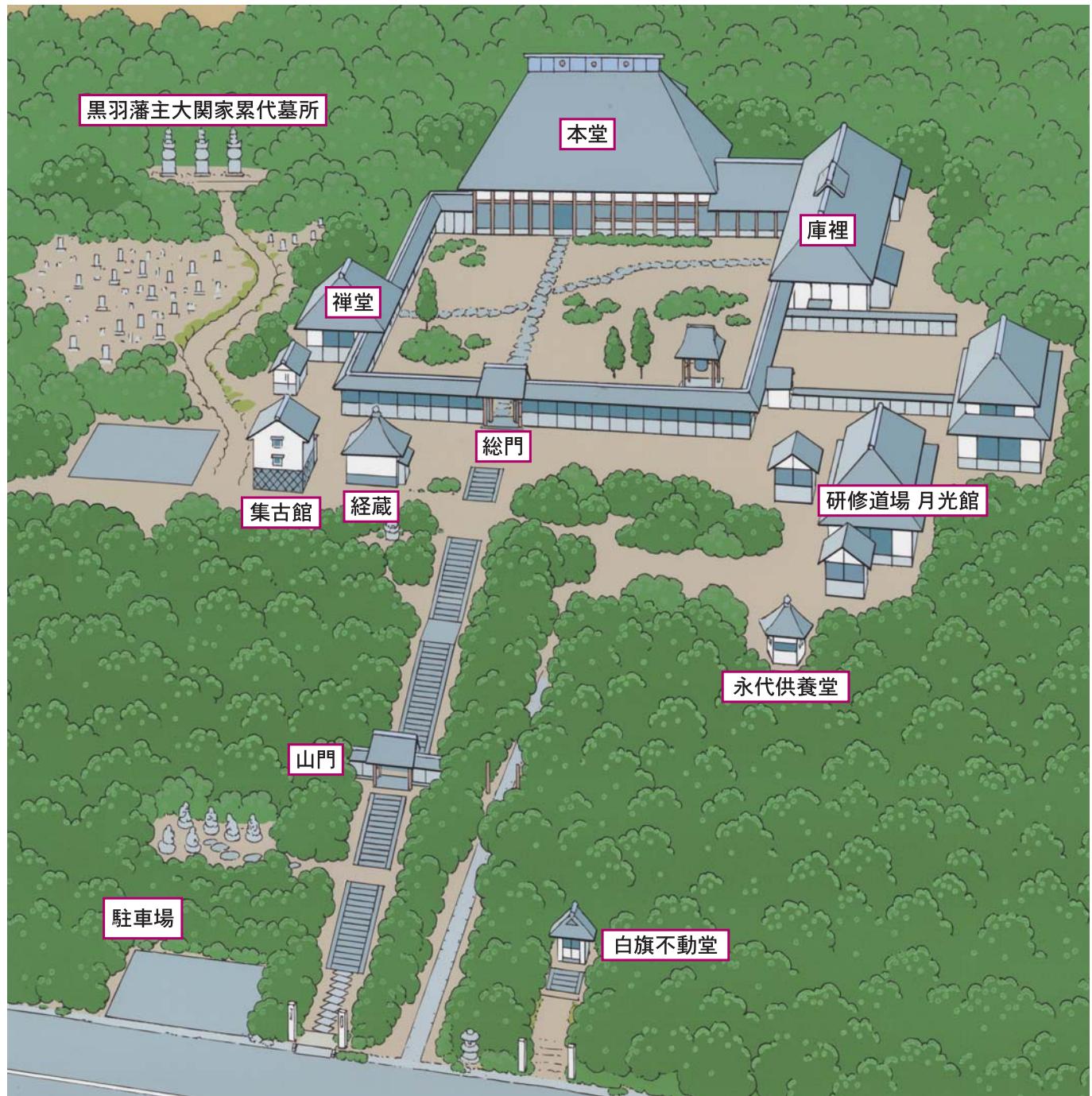


十二月三十一日	十二月十八日	十月一日	九月二十六日	八月二十六日	六月八日	五月十四日	五月八日	五月一日より	一月二十九日	一月一日より
除夜法会	觀音祈願法会	大施食会	秋彼岸会	盂蘭盆会	大般若法会	牡丹コンサート開催	花まつり	牡丹開花	春彼岸会	節分会
										初詣

平成十八年の行事

大雄寺で開催している講座 参加してみませんか！

- 日曜坐禅会
毎月第2と第4日曜日 午前7時30分～9時まで
坐禅・作務・茶話 初めての方歓迎
- ご詠歌教室
毎月第2と第4水曜日 午後1時30分～4時まで
矢板市 瑞雲院住職様が優しく教えていただけます。
- 婦人読経会
毎月第1火曜日 午前8時30分～9時30分まで
読経・法話・茶話
- 写経の会
毎月第1火曜日 午後2時～4時まで
静寂の中経文を写す行です。気軽にご参加できます。
※ 詳しくは大雄寺にお問い合わせ下さい。



大雄寺ホームページ

詳細説明、一口法話、お知らせページ、掲示板など掲載

URL <http://www.daiouji.or.jp/>
E-mail ryoyu@daiouji.or.jp